

コメント：個人金融パネル：「個人金融と地域金融機関」

討論者：家森信善

いずれも興味深い報告で大変勉強になった。さらに理解を深めるために、次のような質問にお答えいただければ幸いです。(質問は、当日の報告順とした)

(1) 吉川卓也先生

- ・図表1について。大きく変化していないともみられるし、株式が減っているともみられる。仮に変化しているとみたときも、期待リターンの変化、リスクの変化、リスク回避度の変化のいずれでも説明できそうに思う。しかも、この3つの指標とも全てデータとして観測できないので、その識別は非常に技術的に難しいのではないかと。
- ・図表7について。国際的な相違は、各国のリスク回避度の差異と解釈されているのか。
- ・個人金融をみる場合、いわゆる金融資産だけでなく、不動産などの実物資産はもちろん、人的資本(将来労働賃金の価値)も重要ではないかと思う。これらまで踏み込んで分析する必要はないか。

(2) 山本一吉主任研究官

- ・高齢者は株式を多く持っており、高齢者が増えると株式保有比率が上がるだろうと言う結論であった。しかし、たとえば、年金の引き下げ、年金課税など、高齢者の負担増も不可避である。豊かな高齢者は今後増えるだろうか。
- ・高齢者の資産が大きくなるのは、退職一時金制度が関連しているように思うが、退職一時金制度はなくなっていく傾向にある。こういった労働慣行の変化も、個人貯蓄率に大きな影響を及ぼさないか。

(3) 木村隆治・信金中金副理事長

・ペイオフ解禁の影響と今後の対応について

ペイオフの解禁の具体的な影響はでているか。

信金業界の考え方は？

- ・信金も含めて消費者ローンが最近落ちている。消費者金融会社ではそういう傾向はみられない。何か原因はあるのか。また、今後この分野にどのように取り組むのか。取り組みに成功している信金の例はあるか。
- ・不良債権処理で中小企業金融が不必要に萎縮しているという報道が多い。現在の規制等(検査も含めて)で問題があるとすれば、どこか。また、どう克服していったらいいか。

(4) 3人の先生に共通しての質問

・日本人に安全志向が強いとして、その志向を変えないといけないのか？これが価値観の問題なら、政策として踏み込むのには疑問もある。日本人の金融知識がないためなら、啓蒙することは重要。